

農業土木工事共通仕様書

新旧対照表

平成 17 年 2 月 14 設計第 694 号

(通知日以降に施工する工事から適用)

改正	現行	備考
<p style="text-align: center;">第3章 一般施工仕様書</p> <p>第3節 共通の工種</p> <p>3-3-7 植生工 (省略)</p> <p>22 植生工の設計変更について、以下事項を確認して行うこととする。</p> <p>(1) 現地試験での現場条件が、表3-3-7「植生工法適応条件表」により、当初選定した工法と不整合の場合、植生工法について設計変更協議の対象と<u>し、必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。</u></p> <p>(省略)</p>	<p style="text-align: center;">第3章 一般施工仕様書</p> <p>第3節 共通の工種</p> <p>3-3-7 植生工 (省略)</p> <p>22 植生工の設計変更について、以下事項を確認して行うこととする。</p> <p>(1) 現地試験での現場条件が、表3-3-7「植生工法適応条件表」により、当初選定した工法と不整合の場合、植生工法について設計変更協議の対象と<u>する。</u></p> <p>(省略)</p>	<p>字句の訂正</p>

改正

表3-3-7 植生工法適応条件表(1/2)

植生工	生芝	腐植酸種子散布工	有機材種子散布工	植生基材吹付工 (土砂系) t=3cm
適用土質	れき質砂(細粒分5~15%のSG-F) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	れき質砂(細粒分5~15%のSG-F) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	れき質砂(細粒分5~15%のSG-F) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	れき(中れき(粒径1.9mm)以下かつ 細粒分5~15%のG-E・G-FS) 砂れき(細粒分5~15%のGS-F) れき質砂(細粒分5~15%のS-F・S-FG)
れき含有量 ^{注2)}	0%~80%	0%~20%	0%~30%	0%~30%
土壌硬度	10mm~27mm未満	10mm~23mm未満	10mm~23mm未満	10mm~27mm未満
勾配	1.0割以上	1.2割以上	1.0割以上	1.0割以上
法面垂直高	—	30m以下	30m以下	80m以下
有機含有量	—	3%以上	3%未満	—
土壌酸度(pH)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)
リン酸吸収力mg/土砂 100g中	1700以下	1700以下	1700以下	—
吹付用ホース延長 ^{注5)・6)}	—	0~200m	0~120m	0~80m
施工適期 ^{注7)}	施工完了時期が日平均気温 -5℃以上までとする。ただし、凍 結している法面への施工は行わない こととする	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで

1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(れき、中れき、粗れき)をいう。
 3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。
 4) 現地調査の結果、当初決定した工法が本表の条件に合わない場合は、工法について設計変更し、必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により別項を
 別途考慮すること。
 5) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準により選択不可となる場合、
 同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。
 6) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。
 7) 施工適期を求めるときは近隣地区の気象データ(年平均)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。
 8) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し、使用すること。
 9) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期までとする。

現行

表3-3-7 植生工法適応条件表(1/2)

植生工	生芝	腐植酸種子散布工	有機材種子散布工	植生基材吹付工 (土砂系) t=3cm
適用土質	れき質土(15%以上50%未満) 砂土(5%以上15%未満)	れき質土(15%以上50%未満) シルト(50%以上) 粘性土(50%以上) 有機質土(50%以上) 火山灰質粘性土(50%以上)	れき質土(15%以上50%未満) シルト(50%以上) 粘性土(50%以上) 有機質土(50%以上) 火山灰質粘性土(50%以上)	中 礫(5%以上15%未満) 細 礫(5%以上15%未満) 砂 礫(5%以上15%未満) 礫質土(15%以上50%未満) 砂 土(5%以上15%未満)
れき含有量	0%~80%	0%~20%	0%~30%	0%~30%
土壌硬度	10mm~27mm未満	10mm~23mm未満	10mm~23mm未満	23mm~27mm未満
勾配	1.0割以上	1.2割以上	1.0割以上	1.0割以上
法面垂直高	—	30m以下	30m以下	80m以下
有機含有量	—	3%以上	3%未満	—
土壌酸度(pH)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)	4.0~6.5 (KCl) 4.5~7.0 (H2O)
リン酸吸収力mg/土砂 100g中	1700以下	1700以下	1700以下	—
吹付用ホース延長	—	0~200m	0~120m	0~80m
施工適期	施工完了時期が日平均気温 -5℃以上までとする。ただし、凍 結している法面への施工は行わない こととする	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が 60日間確保されると予想される時 期まで

1) 土質分類の細粒土量とは75μmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。
 2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。
 3) 現地調査の結果、適応条件に合わない場合は、設計変更を行う。
 4) 土壌酸度が適応条件からはずれる場合には、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。
 5) 施工適期を求めるときは近隣地区の気象データ(年平均)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。
 6) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し、使用すること。
 7) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期までとする。
 8) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適応条件」の基準
 により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。
 9) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

備考

表内字句・数値の修正

字句の修正
 字句の修正
 順番の変更
 字句の修正

改正					現行					備考	
表3-3-7 植生工法適応条件表(2/2)					表3-3-7 植生工法適応条件表(2/2)					表内字句・数値の修正	
植生工	植生基材吹付工 (土砂系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=3cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=8cm	植生工	植生基材吹付工 (土砂系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=3cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=5cm	植生基材吹付工 (有機質系) t=8cm		
適用条件	適用土質		軟岩Ⅰ 強風化・亀裂面風化 クラック間隔5cm未満 レキ最大粒径7.5mm(5%未満) れき(G)	軟岩Ⅰ・Ⅱ 亀裂面風化 クラック間隔5cm~15cm未満	軟岩Ⅱ・中硬岩・硬岩 亀裂面風化 クラック間隔15cm~50cm未満	適用土質 ○内は細粒土量 (75μmふるいを通過するもの)の重量比をいう	粗礫(15%未満) 中礫(5%未満) 細レキ最大粒径5mm(5%未満) 砂最大粒径2mm(5%未満) 礫質土(15%以上50%未満) 砂土(5%以上15%未満)	軟岩Ⅰ 強風化・亀裂面風化 クラック間隔5cm未満 レキ最大粒径7.5mm(5%未満)	軟岩Ⅰ・Ⅱ 亀裂面風化 クラック間隔5cm~15cm未満	軟岩Ⅱ・中硬岩・硬岩 亀裂面風化 クラック間隔15cm~50cm未満	表内字句・数値の修正
	れき含有量 ^{注)2)}	0%~50%	-	-	-	レキ含有量	30%~50%	-	-	-	
	土壌硬度	10mm~30mm未満	30mm以上	30mm以上	30mm以上	土壌硬度	27mm~30mm未満	30mm以上	30mm以上	30mm以上	
	勾配	1.0割以上	1.0割以上	0.8割以上	0.8割以上	勾配	1.0割以上	1.0割以上	0.8割以上	0.8割以上	
	法面垂直高	80m以下	80m以下	80m以下	80m以下	法面垂直高	80m以下	80m以下	80m以下	80m以下	
	有機含有量	-	-	-	-	有機含有量	-	-	-	-	
	土壌酸度(pH)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	土壌酸度(pH)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kc1) 4.5~7.0(H2O)	
	リン酸吸収力mg/土砂 100g中	-	-	-	-	リン酸吸収力mg/土砂 100g中	-	-	-	-	
	吹付用ホース延長 ^{注)5-6)}	0~80m	0~200m	0~200m	0~200m	吹付用ホース延長	0~80m	0~200m	0~200m	0~200m	
	施工適期 ^{注)7)}	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工適期	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期まで	

1) 土質分類の細粒分とは0.075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土)の量をいう。

2) れき含有量のれきとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細れき、中れき、粗れき)をいう。

3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。

4) 現地調査の結果、当初選定した工法が本表の条件に合わない場合は、工法について設計変更し、必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。

5) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適用条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適用条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

6) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

7) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平年値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。

8) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。

9) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期までとする。

1) 土質分類の細粒土量とは75μmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。

2) レキ含有量のレキとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。

3) 現地調査の結果、適用条件に合わない場合、設計変更を行う。

4) 土壌酸度が適用条件からはずれない場合は、土壌酸度矯正のための補助工法を別途考慮すること。

5) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平年値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。

6) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適合することを確認し使用すること。

7) 人工芝を使用する際の施工適期は、施工完了後から日平均気温5℃以上が60日間確保されると予想される時期までとする。

8) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適用条件」は植生基材吹付工(土砂系)の基準を満たすが、「吹付用ホース延長の適用条件」の基準により選択不可となる場合、同等厚の植生基材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

9) 各植生工法の吹付用ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

字句の修正
字句の修正
順番の変更
字句の修正